

巨理町立荒浜小学校

2014年 11月 21日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)

北林 雅洋(香川大学教育学部)

【文献】

(1)「東日本大震災教職員が語る 子ども・いのち・未来」宮城県教職員組合(2012/明石書店)

【場所】

海岸から約1km、阿武隈川の河口から約100mの位置にある。

住所:宮城県巨理郡巨理町荒浜隈潟67

※一時別の学校に併設していたが、現在は同じ場所で校舎を修復して再開。



【東日本大震災による被害】

津波により校舎の1階床上80cm浸水。

【震災当日の様子】

1・2年生は帰りの会、それ以上の学年は6校時目の授業中に地震が起こった。2年生の内1クラスは下校を開始していたが、すぐに校庭に戻り、その後教室に避難した。職員がテレビで津波警報を確認し、校舎内で待機することに決定した。

避難して来る地域住民に混じって保護者が児童を引き取りに来たが、学校は「津波警報が出ているので児童を渡せない。危険なので預かります」という対応をした。それでも5名の保護者が児童を連れて帰った。

校舎3階から阿武隈川の川底が見え始め、水が引いているのを確認し、津波を警戒して児童優先の屋上避難へ切り替えた。やがて、津波が到達し、校庭に海側の住宅の瓦礫が押し寄せ、駐車していた車が全て流された。(1)

【調査して言えること】

学校の標高は2mほどで、周囲の土地よりも1mほど高くなった場所に建てられている。海岸から約1km離れているが、一級河川である阿武隈川の河口からは約100mの場所にあり、学校からも川の様子が確認できるほど近い場所であったことから、地震の際、津波を警戒する必要がある学校である。

周囲に高台が無く、一番近い標高の高い場所は5.5kmほど離れており、学校外への避難が難しい学校である。



南から見た学校(2014/10/31撮影)

※震災後に校庭と屋上をつなぐ非常階段が作られた。



小学校の屋内運動場と川の堤防(2014/10/31撮影)